

### 1. 本園の教育保育目標

保護者の協力を得て、多くの良質な体験を通して自信を持たせ、園児個々の成長目標を達成する

- ・心情(Feeling)の豊かな子ども…「感情表出」「愛情」「他への理解」「申告意欲」「試行意欲」「連帯意欲」「正義感」
- ・態度(Manner)の良い子ども…「挨拶」「謝罪」「感謝」「懇願」「自己責任」「選択責任」「勝者の義務」
- ・自主的に行動(Behavior)できる子ども…「規律遵守」「忍耐」「勇気」「責任感」「委任追従」「自己主張」「自己顕示」
- ・個性(Identity)豊かな子ども…「演出表現」「演技」「言語」「心情表出」  
 「絵画制作」「興味・関心」「集中・熱中」「創造・想像」
- ・健康(Health)な子ども…「運動・体力」「走・跳・投」「泳・潜」「持久意欲」

### 2. 今年度、重点的に取り組む目標、計画

- ①担任がクラスの子どもの個性・特性を理解して適切な対応策を考え教育・保育する。共に保護者対応力の向上を目指す。 ②職員が意見交換出来る体制を作り、園内公開保育を実践し、園全体の保育力向上を目指す  
 ③職員が個人目標を掲げ、他者に公表する事で達成度を向上させる

### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目(課題)	取り組み状況
① 担任したお子さまの個性・特性を理解して関わり、導く手立てを考える。保護者対応力も身に付ける。	グループ制度やクラス制度を見直し、担任が子どもの個性を早期理解して関わる事を徹底した。子どもとの信頼関係を早く築き、子ども性に合わせて教育・保育をする事が出来たので、安心して園生活を送れ様々な体験をする事が出来、成長域の幅が広がった。
② リーダー率いるグループやクラスになると、意見が出にくい傾向がみられる・他クラスの先生の保育を見れない	職員同士が同目線で気付きを増やしていけるクラス設定にし、皆が意見を出し合い向上心を持って教育計画を立てられる様になった。又、他クラスの保育を見る機会として園内での公開保育を実施し、スキルアップを図った。
③ 個人目標を記載し、クラス全員が知る	職員の個人目標を立て、クラス内で共有し、互いの評価をし合う事で、より意識を高めながら保育内容を計画出来た。良い刺激を受け合い切磋琢磨しながら充実した保育内容を提供できた。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

子ども一人ひとりの個性、特性を理解し、適切な関わりをして、必要に応じて保護者へ伝え連携が取れている。そうすることでお子さまが安心して園生活を送れ、成長域が広がっていると感じる。また、職員が目標を立ててそれをクラス職員全員で評価し合い、認め合って向上できているので、引き続き継続していきたい。

#### 5. 今後取り組むべき課題(次年度へむけて)

課題	具体的な取り組み方法
① クラス内で行っている勉強会の内容がクラス以外に周知する機会が少ない	全員で集まる機会(職員会議など)において、良い取り組みや、研究結果を発表し合う場を定例化する
② 自主的な挨拶、自主的な言葉での主張や説明が苦手な子どもがいる	全園あげて、職員が今まで以上の挨拶強化、言葉での主張の手本となる様にしていく
③ 入園前のお子さまに、今必要な関わりや家庭内でしてもらいたい事を伝える機会がない	未就園児とその保護者が安心して子育てをし、必要な関わりや手立てをスマートにお知らせできる場を増やしていく
④	

#### 6. 学校関係者の評価

令和4年度を振り返り見れば、年度の前半と後半、または地域間や業種間で生じたCOVID-19に対して求められる対応の違いに、如何に適切な対応していくかが大きな課題であったと思われる。

年度の前半と後半では感染対策の必要性は変わらないものの、社会活動を元に戻すという社会からの要請を如何に取り入れていくのという判断が難しく、また地域間においては法人本部のある関西圏と首都圏では自治体から求められる処置の厳しさに大きな差異があり、加えて、当法人の教育・保育分野と老人介護事業という業種間にあっては重症化リスクに合わせた対応をそれぞれに分けて行う必要もあった。

このような複雑な状況下にあって、当法人に所属する各施設、職員一人一人が当法人の掲げる基本理念と求める人材の何たるかを示した人材マップに基づいた原点にそれぞれが立ち返ることで、法人本部からの指示待ちに陥ることなく適宜適切な判断を迅速に行っていたことは大変頼もしく感じられた。これも平時にあって、職員教育や施設間、職員間の報告、連絡、相談をスムーズに行える開かれた職場環境を日々構築されてきたことの賜物であると評価している。

このようなコロナ禍でみじくも発揮された連携の力を更に発展させるため、新年度には施設間の人材交流のみならず、保育教諭・保育士・幼稚園教諭・栄養士・調理師・看護師・介護士・ヘルパー・公認心理士、臨床心理士など法人内におられる各分野のエキスパートの交流を意識的に深める施策を検討、実施されるとのことで、どのような化学反応が起こるのか将来性のある試みに大いに期待する。

また、昨年度の理事会・評議会が課題として指摘した年度予算に適合した各施設の安定的黒字化については、介護事業に未達が見られるがその他の施設では良好であった。理事会・評議会からの指摘に真摯に応え運営がなされるのが当法人の特質であるが、それ故に理事会・評議会も短期・長期のそれぞれの視点に立った妥当性の高い管理・監督を心掛けなければならず、適切な緊張関係を今後も維持していきたい。ちなみに、介護事業では介護を必要とされながらもネグレクト的問題からの緊急避難的保護を多く受けたことも未達の要因であったとのことで、理事会・評議会としては社会正義の観点からの清々しさが感じられ許容できるが、来期の改善を望む。

当法人にも少子化、物価高といった社会全体が抱える問題が大きく横たわっているものの、役職員一同が一丸となられて乗り越えていかれることを理事会・評議会としても強く支持していくつもりである。

令和4年3月29日 理事会・評議会